

本日はご多忙の中、防災訓練を開催して頂き誠にありがとうございました。訓練半ばで災害出場してしまい、中途半端になりました事、お詫び申し上げます。講評を皆さんにお伝えできませんでしたので、文書にてお伝えさせていただきます。

初期消火訓練では、通報・初期消火・避難の連携が大切であり、自分の逃げ場を背にして、炎が天井に差し掛かるまで、冷静に対処することが大切です。参加者の皆様も積極的に消火器を手に取り的確な操作が出来ていたと思います。有事の際、自分の安全を確保し冷静に操作できることを願っております。

煙道体験では、煙の恐ろしさについて述べたいと思います。煙は横方向より縦に上昇するスピードが何倍も速く、視界を奪い、有毒ガス（一酸化炭素等を含んでいます）炎や熱気で室内が火災最盛期では室内温度が1000度を超えます。煙で怖いのは精神的にパニックになり、一気に空気を沢山吸い込んでしまいます。本来血液は酸素を全身に運ぶ重要な役割を担っており、一酸化炭素中毒は血液のヘモグロビンと結び付きやすく、血中濃度の60%を超えると、呼吸不全を起こし救命が困難となります。火災の犠牲者のほとんどが一酸化炭素中毒でなくなっています。近年では2019年の京都アニメーションの火災、2021年の大阪北新地のビル火災でも一酸化炭素中毒で多数の方が亡くなっています。唯一助かった方は2階から飛び降りて助かったそうです。一つの考えとしては有事の際、布団を下に投げ落としくッション代わりにしたり、布団シーツをベランダに括り付け降下するなど、緊急時はとっさの判断が生死の運命を分けます。

地震に関しては関東大震災から100年が経過し、今後30年以内に首都直下型地震、震度7クラスの地震が起きる確率は70%と言われております。近年でも、1995年阪神淡路大震災、2007年新潟中越地震、2011年東日本大震災、2016年熊本地震等頻繁に地震が発生しています。いざ、首都直下型地震が起きれば、ライフラインは遮断れ、電気は1週間、水道は1ヶ月使えません。また、同時に火災が発生すると、消防が救助に向かうことは困難となります。

地震対策して、大事なことは自分の住んでいる場所で命を落とさないかを考えておくことです。例えば、寝ている時に倒れてくるものはないか、家具が倒れて出口を塞がないか、トイレはどうするのか、飲料水はどうするのか、食料はどうするのか？電話が使えず家族との連絡はどの様にとるのか等々、皆様に考えて頂き、次回の防災訓練では、消防側からも積極的にアドバイスさせて頂きたいと考えております。

今回訓練では町会長や防災リーダーが先頭立って、住民の方々に指導されていたことはとても素晴らしかったと感じております。今後も自助・共助を構築するため継続的にこのような防災訓練が実施されていくことを望んでおります。

松戸市五香消防署 消防士長 小玉 康文